

月報

1 1 号

発行所

青丘文庫

発行★韓 哲 曠 編集★金 慶 浩
〒654 神戸市須磨区千歳町4丁目1-3
エバークグリーンビル5F
TEL (078) 734-5989

在日朝鮮人運動史の研究会に参加して

伊藤 悦子

研究例会に参加するようになってはや三年。

修士論文で在日朝鮮人に対する同化政策を扱ったものの、在日朝鮮人史全体への理解の欠如と痛切に感じていたおり、大学の先輩である中島さんより紹介されて参加し始めました。

例会に初めて行った際、朴慶植先生が「パワーズ」と自己紹介なさった時、私が「あの有名な朴先生ですか」と横柄な声で言ってしまったことを鮮かに覚えています。

研究例会の雰囲気は排外的でなく、私にとつて初対面の方ばかりであるにもかかわらず、すぐになじむことができました。しかし、はつきり言って当初は、研究会の報告内容はあるんとか理解できたにせよ、討論になるとまるでついていけない、ひたすら下を向いて黙っているという状態だったのです。討論内容が専門的であったがためというより、私が運動史に関する基礎的

知識を欠いていたためでした。

そうした状態を脱したのは実はつい最近のことで、それは自分自身が運動史に関する論文を書いたことにもよりますが、やはり、研究例会に参加して耳学問を続けたためだと思えます。耳学問の中には例会での討論もありますが、それに加えて夕食(?)を兼ねた例会後の飲み会における雑多な話題が、私の知識ばかりでなく、その認識をも育ててくれました。少レばかりお酒の入った中でのフランクな対話によって、歴史認識、研究会への関わり方、現実の問題に対する見方など多様な面で私は鍛えられました。

研究例会に参加することで、大学では学べぬ多くのことを私は得ることができたと感じています。現在、研究例会のあり方とめぐって内部で討論が進められています。在日朝鮮人史研究を発展させるうえで、どうすべきか、また、例会の果す「交流」の意味も含めて考えていきたいと思っています。

俗談풀이 「농사꾼이 죽어도 종자는 빼고 주지 않다」

刑罰이 죽이 비린 후면 종자고 농사꾼 소용 없은 것을 모르고

죽이 죽은 후면 종자고 농사꾼 소용 없은 것을 모르고 (耳談續纂에)

農大鐵死 祝願種子(言愚者若不知死而敢且無用)シ

報告者 堀内 稔

テーマ 朝鮮窒素の水電工事と労働者

朝鮮窒素肥料は、北朝鮮の豊富な電力資源を背景に一九三〇年以降朝鮮における最大の化学工業会社として君臨した。この電力資源開発の水電工事には、多くの労働者が動員された。労働者の供給源は、朝鮮の農村であるが、多くの労働者が単純に水電工事に集まったのかどうか。この点について、a労働者かのように集められたのか、bどのような労働条件であったのか、c労働運動は行われたのか……の三つの視点から考察してみた。

朝奎の水電開発は、赴戦江、長津江水電、虚川江、鴨緑江の四つの河川で行われた。まず、赴戦江の場合は、渡日労働者の渡航阻止が社会問題となり、その解決策として日本に渡ろうとして渡航阻止にあい、釜山にあふれていた労働者を水電工事場に送ろうとしたことが、特徴の一つとしてあげられる。いま一つは、より安価な労働力としての中国人労働者の採用である。一九二七年五月の段階で、就業労働者総数四千人のうち、朝鮮人は半分で、中国人が多数を占めているとの新聞報道もある。

長津江水電開発の時には、南朝鮮の水害罹災民や窮民の救済事業の一環として、窮民が北朝鮮へ送られた。この移送窮民が、故郷へ逃げ帰って社会問題化したこともあった。

渡日阻止の労働者であれ、北送の水害罹災民であれ、その多くは工事場から離散している。その原因は、賃金が条件と違つて安いこと、仕事がつきついことなどであつた。これは、不当な労働に対する労働者の消極的な抵抗でもあつた。

日本人労働者に比べ、賃金は明かに差別された。労働時間は一二時間が普通で、危険も多く事故が頻発した。住居は、「豚小屋」に豚がいないだけの寒風雪雨を防ぐ程度の狭いところに五、六人がひしめいて暮らしている」状態という新聞報道もある。賃金は安いうえに伝票の形で支給され、それでもつて組の配給所で物を買おうとすると五分引きになつたともいう。まさに二重、三重の搾取構造であつた。

このように厳しい労働環境でありながら、少なくとも『東亜日報』を通してみる限り、これといった労働争議はなかつた。もちろん、賃金をめぐるトラブルはあつた。南朝鮮から移送された労働者が、募集条件と違つて、請け負い業者と紛争を起すケースだが、組織的なものにはならず、逃亡の形でしか現われていない。一九三八年に虚川江水電工事場で、南朝鮮からの幹旋労働者が飯場事務所で騒ぎを起こして五八名が検挙されたという記事が、わずかに見られるくらいなものである。

労働の性格が、工事が終われば四散してしまう一過性であり、また工事現場が深い山奥にあつて組織化の指導が難しかったためであらうか。

在日朝鮮人運動史研究奥西部会 (第七四回)

報告者 藤井幸之助 (一九八五・一一・一〇)

テーマ 解放後、日本における朝鮮人学校の国語教科

書について

一九四五年八月一五日に解放を迎えた在日朝鮮人は祖国に帰るまでの間に朝鮮語を知らない世代のために言葉を教える国語教科書を各地に作り、かり版刷りで教科書も出しはじめた。

これら民族教育を制度面から考察した研究は多いが、具体的に何をどう教えていたかについては康允浩の『開化期の教科用圖書』や日帝末期及び大韓民国において詳しい李淑子の『教科書に描かれた朝鮮と日本』があるが少ない。

本報告は解放後の初等学校における国語教科書に焦点をあてた。

一九四五年に入ると、国語講習所も学校の体裁をとるようになり、新学期から小学校は上中下の三学年制になった。授業も国語・地理・歴史・算数・理科など初等教育の全般にわたった。朝鮮文化部に初等教科編纂委員会が組織され全国統

一的な教科書を作り、内容の充実をはかった。今回は初等教科編纂委員会の『初等国語読本』上(改訂版)中(下は欠)と朝鮮文化協会の『우리말』を見た。どちらも一九四六年五月五日発行で対象は小学生である。

前者は三巻にわかれ、オフセットB6版各六・七〇頁程度。朝鮮文字の構成から始まり、単語、短文、読み物から成る。内容は日常生活、朝鮮の地理など民族的なものが大半を占め、他にグリムやインッポからの寓話などを。少し絵も豊富で太極旗や民族服が頻りにあられれる。

後者はB6版七二頁で、奥付によると三万部発行。いきなりオキハ順で単語が出る。課の構成は前者とよく似る。内容も重なるものが多い。両者とも身近なところから民族に対する誇りを育てるよう工夫されている。今後はできる限り当時の教科書を集めて、朝鮮人学校とともに教科書の内容がどう変わったか見てゆきたい。

次回案内

(一) 在日朝鮮人運動史研究奥西部会 (第七五回)

報告者 梁 永厚氏 (一九八五・一二、八四二頁)

テーマ 大阪の朝鮮人登録係から外国人登録令(資料の紹介)について。

料の紹介)について。

(一) 朝鮮民族運動史研究 (第五一回)

報告者 迎 英浩氏 (一九八五・一二、六三三頁)

テーマ 解放直後の北朝鮮の政治状況について

新着図書案内

▲ 兵庫の中の古代朝鮮(兵庫の歴史2) 版 熙麟著

神戸新聞出版センター 八五・五 45 ニ七二頁

▲ 分断民族の苦悩(韓国現代社会双書) 李 永禧著

高崎泉司訳 東京 明茶ノ水書房 85・5 45 ニ三三頁

▲ 東洋革命と 民衆(近代思想の 関与) 李 炫熙著

서울 도산출판 大光書林 85・6 45 ニ七六頁

▲ 仁村 金 性珠(이촌 김성주의 사상과 일화)

権 五瑞著 서울 東亜日報社 85・6 45 四三六頁

▲ 朝鮮40年の 変遷(돌변개 이문과회총서)

송 건호外著 서울 돌변개 85・8 45 三一七頁

▲ 兵庫県立図書館目録(85・58) 同館資料課編 神戸

同館 84・12 43 一〇三頁

▲ 光州五月義挙抗争の記録 光州義挙追慕会 訳

東京 女子バコ会 85・10 45 ニ三八頁

▲ 国立国会図書館所蔵中国語・朝鮮語雑誌目録 同館

並次刊行物部編 東京 同館 84・5 九九頁

▲ アジア・アフリカ資料通報 一 韓国語・朝鮮語雑誌分類目録

(一九八〇) アジア・アフリカ課編 東京 国会図書館 85 56頁

▲ 近代韓国公共図書館史の研究―開化期から一九二〇年代まで―

参考書誌研究 4 第30号 宇治郷 敬著 85・9 45 22p

▲ 韓国現代史 姜南吉著 高崎泉司訳 85・9 東京 高

麗書林 45 ニ一五頁

▲ 韓国農村事情 嶋陸秀著 東京 PHP研究所 85・11 46

▲ 破局の時代に生きる信仰 池明観著 東京 新教出版社

85・10 46 ニ六二頁

▲ 北鮮の日本人苦難記―日寧興南工場の最後― 鎌田正二

著 東京 時事通信社 70・8 45 四四九頁

▲ 人文研究 九号 嶺南大・人文科学研究所編集発行 85・9

百済研究 15号 成国鐸編 忠南大・百済研究所 85・

12 45 ニ七九頁